

日時 令和5年11月8日（水）

午後7時～9時

場所 松本市役所3階 大会議室

～ 議事概要 ～

■会議事項

1 #06、#07イベント結果報告（資料1-1、1-2）

- #06イベントの実施概要は以下のとおり。
 - ・日時：令和5年9月30日（土）午前9時～午後5時
 - ・会場：乗鞍高原
 - ・内容：森林浴体験
- #07イベントの実施概要は以下のとおり。
 - ・日時：令和5年11月4日（土）午後1時～4時
 - ・会場：牛伏川階段工周辺（松本市内田）
 - ・内容：牛伏川階段工に学ぶ山地災害史とその対応

2 アンケートについて（資料2）

- 市民向けアンケートの実施予定について、回答者の手元に届いてから2回程度の週末を含む形で回答期間を設定するのが一般的であることから、送付後約2週間後を回答期限として設定する。そのため、11月中には発送し12月上旬には概ね回収といったスケジュールで実施を予定する。
- 無作為によるアンケート実施について、ホームページ等で情報発信しつつ、その公開情報の中で「アンケートが届かない方は、イベントやフォーラムに是非ご参加ください」といった案内ができないか検討する。

3 ビジョンの骨格づくり（資料3-1～3-4）

- 今後は、資料3-3（ビジョン骨子案）の将来像の3区分（森に入る、森の恵みを活用、森の機能の保全活用）で妥当なのかどうか検討しなければならない。この3区分は森林の専門家的な発想であるとも感じられ、市民目線ではもっと曖昧なよく分からないものとして森林を捉えているとも考えられる。
- 「森は見ているだけ」や「きれいな景色として存在していれば良い」といった意見が、松本市民の中では大きなウエイトを占めているという印象もあり、市民が“森”と言っているものと、運営委員が“森”と言っているものの間に違いがあるように感じる。そのため、森に“入る”前に森がただ“ある”というレベルは、松本市にとってとても重要なキーワードかもしれない。そうであれば、森があり続けるにはどうすればいいのかという視点に繋がり、街中にある公園の機能や利便性を高めていくという取り組みにも繋がっていく可能性が生じてくる。

- 松本市の街中は都市に近い環境で、市民にとって自然を代表するものとしては、森林ではなく木だったりするのではないか。そのため、林業寄りの視点から捉える森林ではなく、木々1本1本でも森林として認識する視点も無視できない。
- 資料3-3に入っていない要素として、単に50年後の将来像を示すだけでなく、その途中のチェックポイントとしての将来像も設定したほうが良いのではないか。ただ、その将来像のイメージをあまりに詰めすぎると“像”ではなく基本施策になってしまうし、その兼ね合いが難しい。
- 原始的な森林は現在では皆無で、今存在する森林は人の手が加わって形作られてきたという歴史を前提としなければならない。そうすると、歴史的背景や現状も踏まえながら地域ごとに市民の生活や目的に見合った将来像を検討していくと良いのではないか。

4 今後の取り組みについて（資料4-1～4-2）

- 今年度、あとイベントを1回、フォーラムを1回実施する。内容については以下のとおり。

イベント

- ・日時：令和6年3月10日（日）午後
- ・会場：あがたの森文化会館
- ・内容：グリーンウッドワーク（製材した木材ではなく加工度の低い状態の木を使った工作）と簡単な木組みの構造物の組み立て
- ・対象：親子 延べ20名程度
- ・担当委員：香山委員、永原委員、小口委員

フォーラム

- ・日時：令和6年2月4日（日）午後1～4時
- ・会場：あがたの森文化会館
- ・内容：松本市の森林の目指すべき姿、利活用の形、そのための方策の意見交換
※ブース展示も検討
- ・担当委員：三木委員長、小山委員、大田委員、渡辺委員
- イベント内容として、他にも以下の候補が挙げた。
 - ・街中の森（あがたの森など）でのイベント
 - ・本格的な林業関連イベント（奈川地区、安曇地区等）
 - ・松枯れ林からの回復をテーマにしたイベント
 - ・森林化が進行した耕作放棄地でのイベント
 - ・森林所有者からの率直な声を聞くイベント

■その他

- 次年度の予算確保に関して、以下に示す取り組みへの予算確保の要望が挙げた。
 - ・グラフィックレコーディング（フォーラム等での実施）
 - ・ビジョン開始のプレイベントという位置付けでのイベント編成（フォーラム後）
 - ・ポスター作成（ビジョンの市民への周知）
 - ・運営委員会の回数増加（ビジョン策定までには多くの作業や検討を要するため）

議事録要約

1 委員長あいさつ

(三木委員長)

今回は議題も盛り沢山であるため、早速令和5年度の第5回運営委員会を開催したい。

2 会議事項

(1) #06、#07 イベント結果報告 (資料1-1、1-2)

(市)

#06、#07 イベントの結果について報告させていただく。

(三木委員長)

#07 イベントの方は参加者からのアンケート回答が少ないようなので、参加者に促していただければと思う。

(2) アンケートについて (資料2)

(環境アセスメントセンター)

市民向けのアンケートについて説明させていただく。

(三木委員長)

今後の実施スケジュールを教えてください。

(環境アセスメントセンター)

委員の皆様からご意見を頂き、できるだけ早く発送したい。回答者の手元にアンケートが届いてからだいたい2回程度の週末を含む形で回答期間を設定するのが一般的に良いとされていることから、送付後約2週間後を回答期限として設定したいと考えている。そのため、11月中には発送し12月上旬には概ね回収といったスケジュールで予定したい。

(小山委員)

どれくらいの回収率を想定しているのかお聞きしたい。要するに、送付数を2000通にした根拠は。

(環境アセスメントセンター)

一般的に行政が市民向けにアンケートを実施する場合、民意反映の目安として概ね300~400の回答数が最低ラインと言われている。回答率は概ね3~4割であるため、2000通送付した場合はこの最低基準を満たすという想定から送付数を設定した。

(三木委員長)

今後の市民会議の活動に関わってくれる市民を発掘することを意図して、アンケートの最後に任意の連絡先記入欄を設けてはどうか。

(小山委員)

やめたほうがよい。

(香山委員)

アンケートの実施は公開するのか。公開されない状態で、回答候補として抽出された市民の元へ唐突にアンケートが届く形になるのか。

(市)

基本的には公開しない方針である。公開したとしても回答候補以外の市民にはアンケートが送付されず、回答を希望しても回答できないことから公開は必要ないと考えているが、公開したほうが良い理由があればご教示願いたい。

(小山委員)

市民からの意見を集約する方法としては、無作為によるアンケートとイベント・フォーラムへの参加の2本立てとなっている。無作為によるアンケート実施を公開しつつ、その公開情報の中で「アンケートが届かない方は、イベントやフォーラムに是非ご参加ください」という告知ができれば良いのでは。

(三木委員長)

松本市森林再生市民会議のホームページで告知してみてもどうか。アンケートが届いた市民の立場から考えても、アンケートがどういった位置付けのものか調べる可能性があるため、ホームページに告知されていれば納得感も得られやすいのではないかと。市の方でもご検討いただきたい。

(市)

検討させていただく。

(3) ビジョンの骨格づくり (資料3-1～3-4)

(環境アセスメントセンター)

ビジョンの骨格づくりに関する資料について説明させていただく。

(三木委員長)

前回の運営委員会での委員からの意見をまとめると資料3-3のようになる訳であるが、こうやって整理したものを眺めてみるとまだ足りていないものがよく分かる。例えば「具体的な取り組み」や「取り組む地域」といった項目は現状では抜けている。まずは委員の皆さんからのご意見を伺いたい。

(小山委員)

前回の運営委員会では、資料3-4(前回運営委員会議事録)にある「森林と人の生活の良い関係を探る」という方向性でかなりきれいにまとまった感がある。この方向性を如何にしてビジ

ョンに反映していくのかという点が次の課題となり、作業としては資料3-3（ビジョン骨子案）の将来像の3区分（人の利用：森に入る、人の利用：森の恵みを活用、森の機能の保全活用）にこの方向性をうまく落とし込んでいくということか。さらに、この3区分で妥当なのかどうかということも検討しなければならない。基本施策や具体的な取り組み、取り組む地域といった項目は、将来像の区分と内容が固まらなければ決めることは難しい。

（香山委員）

前回の運営委員会では、森林ビジョンはどうして必要なのかについて議論したが、ビジョンは誰が作るのかという点も大切である。現状では市民からの森林ビジョン策定への強い要望はなく、市や我々運営委員による有志が作っているという形になっている。大町市の場合、市（正確には北アルプス広域）としては森林ビジョンを策定しない方針で、市民側から案を提示してくれるのであれば検討しても良いという立場を取っているが、松本市は大町市とは逆で、市が先頭に立って何とか市民を森林ビジョン策定に引き入れていこうとしている。市民にとって森林が必要だという機運を徐々に高めていけるよう努力している最中であると思う。

資料3-3に示された将来像の3区分については、森林の専門家的な発想であると感じる。市民目線では、この区分で森林を捉えているとは考えにくい。もっと曖昧なよく分からないものとして森林を捉えているのではないか。

（環境アセスメントセンター）

現状からすると、「林産物を使いたい」という市民からの意見はイベントやフォーラムではあまり挙がってきていないという印象がある。どちらかという、「森林を楽しみの場として利活用できると嬉しい」という意見が多い。そこで資料3-3では、まず（人の利用：森に入る）という視点から何か将来像を考えられないかと思い取り上げた。また、木材生産や林産物活用の視点でも取り上げない訳にはいかないのではという考えから、（人の利用：森の恵みを活用）という視点からの将来像が検討できないかと思い、盛り込んである。また、市内には水源かん養のための保安林や自然豊かな生物多様性を育む森林も存在することから、（森の機能の保全活用）という視点での将来像も必要かと思い、ここに取り上げた。

参考資料として、他市町村の事例もいくつかご提示した。いずれも各地の土地柄が反映されたビジョンになっているという印象で、例えば林業を主とした事例があったり、それとは対症的に、森林を憩いの場として全面に押し出していたりする事例も見受けられる。松本市についても市ならではの特徴が活かされたビジョンになれば良いと思われ、市内には山奥の森から市街地に近い森まで多様な森林が存在することから、求められる森林のあり方・将来像も地域によって異なるということになるかもしれない。

（小山委員）

参考資料として挙げていただいた事例のうち、相模原市と小田原市の状況はよく分からないが、それ以外の3事例についてはある程度状況を把握している。例えば、豊田市は市が主導して作成し、東近江市は地元の関連団体が主体となっていてどちらかという市民よりで、伊那市は完全に市民主導で作成されている。それぞれの地域での作成主体が行政なのか市民なのか、それとも

その中間なのかという特徴がビジョンにもよく表れている。松本市についても、主な主体が誰になるのかという視点で交通整理していくと、まとめやすいかもしれない。

(三木委員長)

資料3-3の将来像に関する項目分けについて、これ以外に分類方法があるのかというのが正直な感想であるが、他の分類は何か考えられるか。

(小山委員)

例えば、「森は見ているだけ」とか「きれいな景色として存在していれば良い」などといった意見が、松本市民の中ではかなり大きなウエイトを占めるのではないかという印象がある。市民が“森”と言っているものと、我々運営委員が“森”と言っているもの間にも違いがあって、市民はいわゆる街中に存在する緑をかなり“森”として意識しているのでは。具体的には「あがたの森」のようなイメージを森林として抱いている市民も多いのではないか。こういった市民の感覚も森林ビジョンの中に盛り込んでいくことになるのではないかと想像するが、この感覚が我々林業従事者にはないところかと思う。森に“入る”前に森が“ある”というレベルは、松本市にとってももしかしたらとても重要なキーワードかもしれない。そうすると、森があり続けるにはどうすればいいのかという視点にも繋がるし、街中にある公園の機能・利便性を高めていくとう取り組みにも繋がっていく可能性が生じてくる。

(三木委員長)

資料3-3に入っていない要素として必要かと思うのは、単に50年後の将来像を示すだけでなく、その途中のチェックポイントとしての将来像も何かしら設定したほうが良いのではないか。例えば、松本市は今後も松枯れが進行していくと予想されるが、一旦松枯れが収束しその先に森林が復活していくタイミングで将来像を設定するというような、50年後のゴール(長期的)だけでなくその途中段階(中期的)でも設定したほうが分かりやすいのではないか。

(小山委員)

中期的な目標を今の段階で設定すべきなのか、疑問に思う。「森林がこういうふうになって欲しい」というゴールがまずあって、そこへ向かうための途中段階についてはその後検討したのでも良いのではないか。むしろ、途中段階に拘ってしまうことで旧態依然とした林業目線のビジョンになってしまうことも危惧する。林業関係者ではない委員からの意見も是非お聞きしたい。

(大田委員)

私は元々松本市が出身ではなく、愛知県から来た。来る前から松本市を含め長野県は観光のイメージがとても強く、いまでもその印象はさほど変わってはいない。私の周りの松本市出身の方々は森林に対してあまり興味はなく、子どもがいれば子育てのために森に入ってみたいという方々が多いようである。森との関わり方を知らなかったり、一緒に森と関わる仲間がいなかったりすることで、森との関係性が希薄なように感じる。

(香山委員)

松本市の街中は都市に近い環境で、市民にとって自然を代表するものとしては、森林ではなく木だったりするのではないかと。そうすると、まさしくあがたの森が“森”になるし、街路樹も森の一形態として市民が認識することに繋がる。この場合、街路樹 1 本伐るだけでも自然破壊と捉えられることもあり、東京都の神宮外苑の開発問題などは正にその良い例である。松本市の場合、神宮外苑の事例ほどではないものの、似通った点は大いにあるのではないだろうか。そのため、林業寄りの視点から捉える森林ではなく、木々 1 本 1 本でも森林として認識する視点も無視できない。また、原生的な森林は現在では皆無で、今存在する森林は人の手が加わって形作られてきたという歴史を前提としなければならない。

(小山委員)

森林を利用する目的で整理すると、観光、子育て、市民の憩い、資源の活用、災害防止、緑を残すといったキーワードが挙げられる。これらの目的を達成するため松本市の森林はどうあるべきか、論点をひっくり返してみると見方が変わるのでは。

(三木委員長)

松本市が取り組み内容を考えるのではなく、市民からの意見を反映した取り組み内容を松本市が取り組んでいくという方向性の方が良いのでは。

また、例えば「観光できる森」という将来像を設定した場合、松本市らしさを打ち出すためには、現在の松本市の状況を踏まえた方が良くはないか。

(香山委員)

人が関わっていない森林は存在しないということを前提にすると、松本市の森林は松本市の文化や人の営為を如実に表しているとも言える。例えば松枯れについても、松本の歴史が形作ってきた文化的な景観であり、マツノザイセンチュウが枯らしたという生態的事実とは別に、社会的背景、つまり松林が人の生活の中で使われなくなってきたという事実が松枯れに大いに関係している。美鈴湖は観光地として過去に大いに盛り上がった時代があったが、それはそこに森林が存在したからではなく、松本の市街地からすぐの市民が訪れやすい場所に、大きな人工湖が出来たことによるところが大きい。

(小山委員)

人の生活とともに森林が形作られてきたということから、歴史的背景や現状も踏まえながら地域ごとに市民の生活や目的に見合った将来像を検討していくと良いのでは。

(小穴委員)

ビジョンについては、具体性を重視し、分かりやすい庶民的な内容の方が親しみやすい。

(三木委員長)

将来像は“像”なので、絵としてイメージできないと“像”にはなりにくい。例えば「観光がで

きる森」とした場合に、それはどういった森の姿なのか。ただ、その像のイメージをあまりに詰めすぎると“像”ではなく基本施策になってしまうのであろうし、その兼ね合いが難しいと感じている。

(小山委員)

将来像は三木委員長をはじめ運営委員で決めることではなく、次回のフォーラムで市民が決めていくのではないかと。市民からの「こういう森があったら良い」という個々のパーツの交通整理をして、それが全部持ち上がった姿としてランドデザインを考えるという流れではないかと。

(三木委員長)

パーツに漏れがあると困るので、それはできるだけ無くしたい。例えば、現状では獣害に関する要素は含まれていなかったりする。我々委員が気が付いていないパーツがあって、その点を市民から指摘していただくという流れも有効ではないかと思う。

(4) 今後の取り組みについて (資料4-1～4-2)

(三木委員長)

今年度の残り時間を考えると、資料4-1にあるような形でイベントを2回、フォーラムを1回実施するというのは無理がある。そこで、イベントを1回、フォーラムを1回実施するというのが現実的と考える。

フォーラムについては、今から市民にアナウンスして準備を進めていく作業時間を考慮すると、2～3月になる。会場については、ブース展示することも考慮すると、必然的に比較的大きめの施設ということになる。

イベントについては、あと1回実施する場合どういった内容がよいか。

(香山委員)

木材に直接触れる体験イベントを企画してみてもどうか。これまでのイベントのように完成したものを見学するのではなく、自分達で木材を使って何かを作ってみるイベントはどうだろうか。

(大田委員)

親子を対象にしたイベントはまだ実施していないので、いかがか。

(小山委員)

次年度があることも考慮して、他にどういった内容のイベントを実施しておいたほうが良いのか整理してみてもどうか。先ほど挙げた木に触れる体験イベントや親子を対象としたイベントも含め、3年間で網羅しておいたほうが良いイベント内容を洗い出してみると良いのではないかと。私からの意見としては、例えばあがたの森とか、一度街中の“森”でのイベントを実施してみたい。他には奈川地区か安曇地区で本格的な林業関連のイベントの実施を検討してみてもどうか。次年度で実施しきれなくても良いので、ビジョン策定後の取り組みも想定して、積み残していることがないか挙げておくと良いのではないかとと思う。

(三木委員長)

小山委員からご指摘のあった視点で考えると、「松枯れ林からの回復」をテーマにしたイベントを私からは挙げたい。特に、松枯れが放置されている箇所についてどの程度の心配事になっているのか分かるようなイベントが実施できると興味深い。

(大田委員)

森林所有者からの率直な意見が聞けるような場の設定はどうか。イベントとして成り立つのかどうかという問題はあるものの、個人的にはとても興味がある。

(永原委員)

イベント向きかどうか分からないが、森林化が進んだ耕作放棄地に注目したイベントはどうか。森として位置付けて良いのかどうか判断が難しいが、街中でも見かけることがある。

(三木委員長)

挙げていただいた中で今年度中に実施できるのは、やはり屋内でのイベントになるか。やはり木に触れるイベントは屋内向きではないだろうか。やり方次第で親子イベントとしても可能かもしれない。実施するとすれば、具体的にはどういった内容が考えられるか。

(香山委員)

製材した木材ではなく加工度の低い状態の木を使った工作はどうか。一般的には「グリーンウッドワーク」と呼ばれていて、木は生き物であるということも含め体験できる。また、これと合わせて、簡単な木組みの構造物を親子で組み立てるようなことも考えられる。クラフト的な要素から建築的な要素まで含まれる作業を親子で楽しむことが可能である。

会場は体育館のようなそれなりに広い場所が必要で、刃物を使うので、参加者は20人程度までか。

(三木委員長)

木を加工体験する親子イベントをこの冬に実施する方向でいかがか。フォーラム開催時期との兼ね合いで、フォーラムを2月頃とすると1月か3月ということになる。

(小山委員)

まずフォーラムの開催日程を優先して決めてしまってはどうか。

(三木委員長)

フォーラムの開催日時は、あがたの森の空き具合から2月4日(日)13~16時としたい。担当委員は私のほか小山委員、大田委員、渡辺委員でお願いできればと思う。小山委員には特にワークショップの進行役をお願いしたい。ブース展示への声掛けは交友関係の広い清水副委員長にもぜひお手伝いいただきたい。

また、イベントの担当委員は香山委員にお願いしても良いか。

(香山委員)

承知した。3月10日(日)午後にあがたの森でお願いしたい。他に材料提供を中心に小口委員と永原委員にもご協力いただけるとありがたい。講師はこちらで心当たりもあるので、声掛けしてみる。

(小山委員)

ブース展示出展への呼び掛けは、交友関係の広い清水副委員長をはじめ委員の皆様方にも自身の得意分野で是非ご協力いただきたい。

3 その他

(三木委員長)

次年度の予算確保について意見があればお願いしたい。私からはグラフィックレコーディングの予算確保を要望したい。来年度のフォーラム等での実施を想定している。

(小山委員)

次年度のフォーラムは、ビジョンの公開パブコメの形で秋頃開催かと思っているが、フォーラム後もビジョン開始のイベントという位置付けでイベントを編成できるような予算編成をお願いできるとありがたい。

(渡辺委員)

ビジョンを市民へ周知するためのポスター作成の予算も必要ではないだろうか。また、フォーラム前は、ビジョンの内容を最終的に詰めていく必要性から、運営委員会の回数も昨年度や今年度より増やした方が良いと思われる。

(三木委員長)

以上で第5回運営委員会を終了する。